

# 阿南市立羽ノ浦中学校 学校評価結果

令和4年度調査

## 1 回答者

生徒362名 保護者390名 教職員27名  
(令和4年12月9日(金)～12月20日(火)に実施)

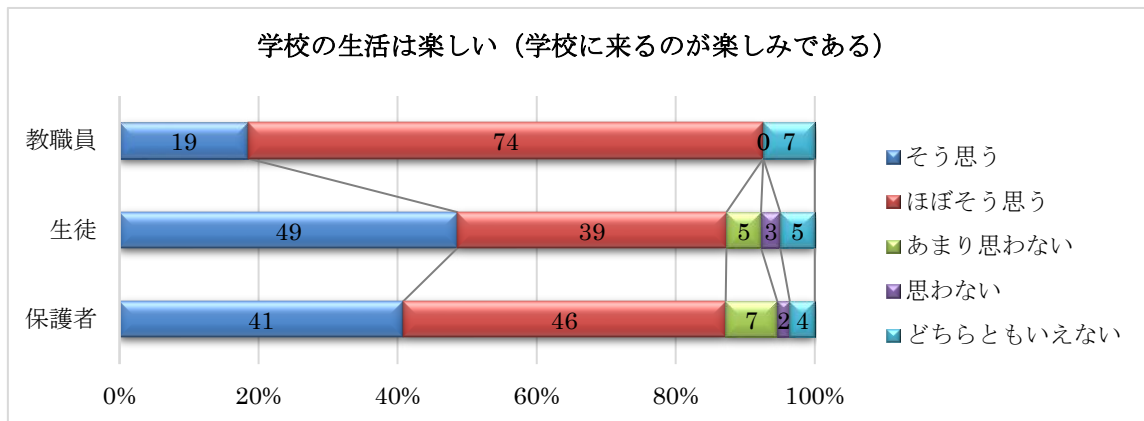
## 2 回答方法

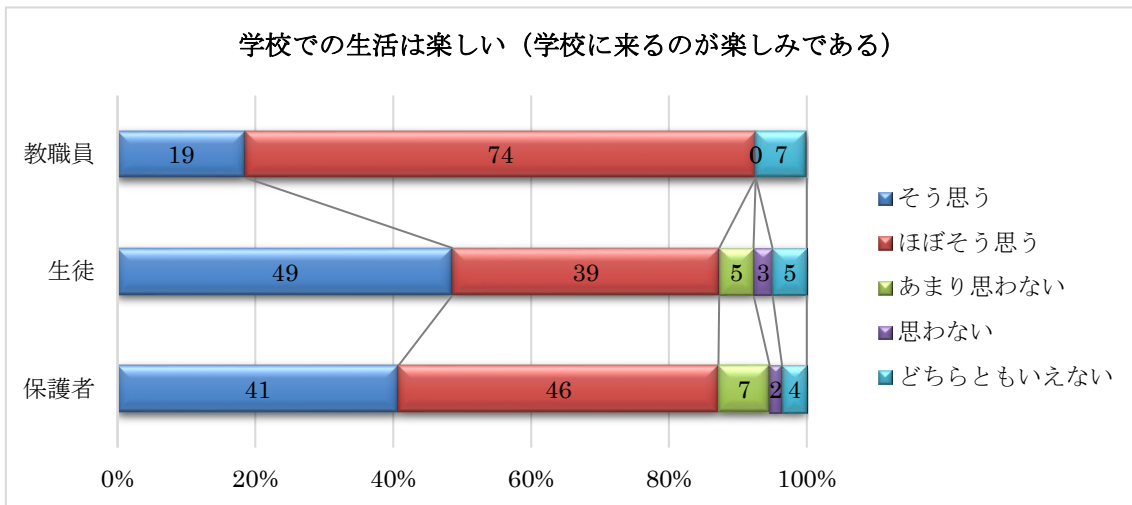
各質問事項に対して、「そう思う」「ほぼそう思う」「あまり思わない」「思わない」「どちらともいえない」の5段階で回答していただき、「そう思う」「ほぼそう思う」を肯定的意見、「あまり思わない」「思わない」を否定的意見として調査結果を分析しました。

## 3 結果の活用

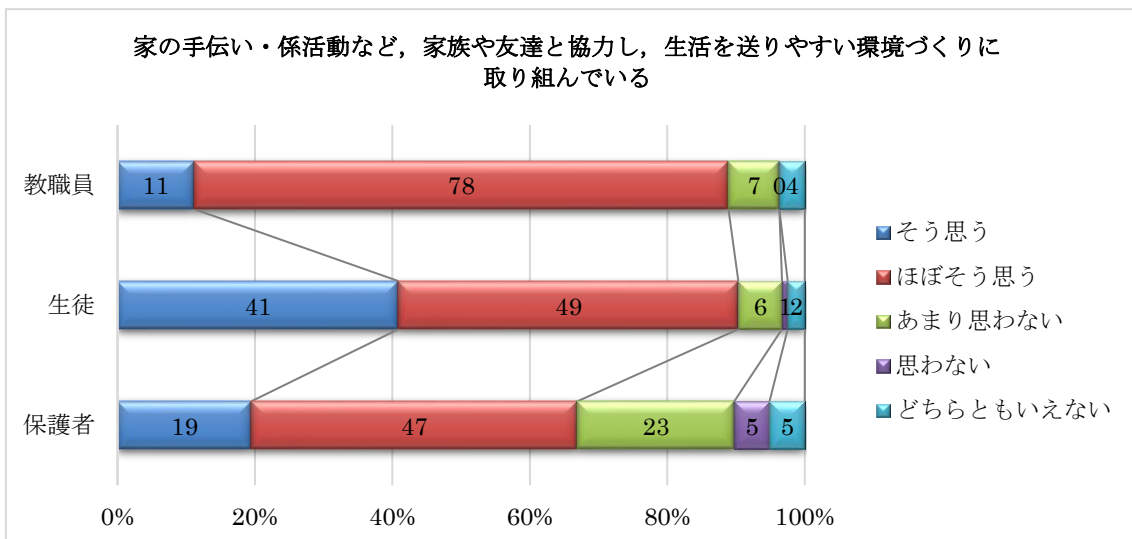
調査結果は2月にとりまとめ、全ての教職員に配付し課題と改善点を明らかにし、令和5年度の学校運営や教育方針、さらに重点目標に反映させていただきます。また、保護者や運営協議会委員の方にも調査結果をお示ししてご助言をいただき、改善すべき点は積極的に改善するよう努めていきます。

グラフの見方(例) グラフ内の数字は全体に占める割合(%)を示す

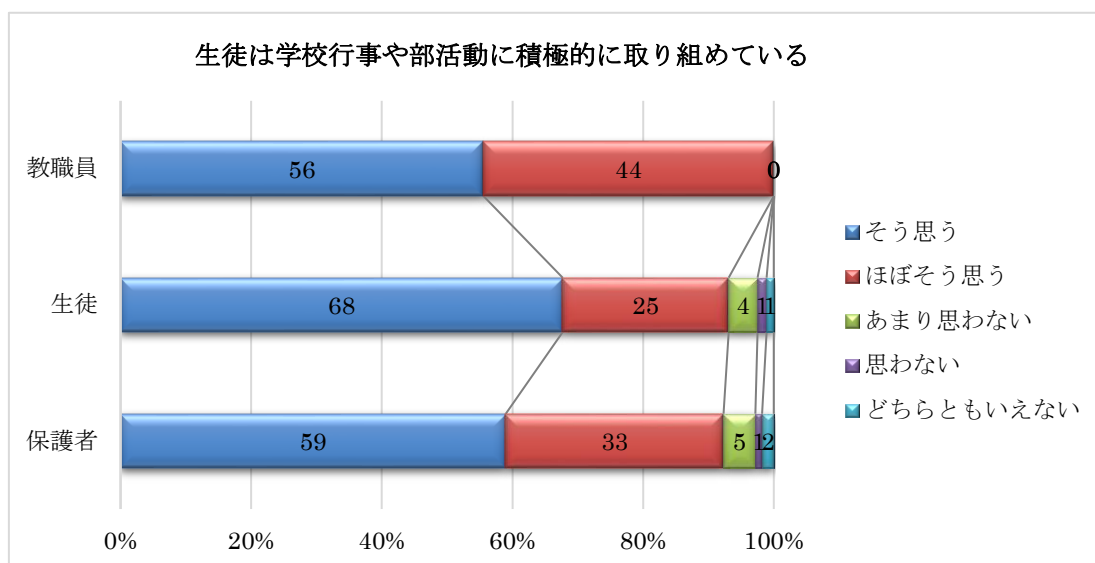




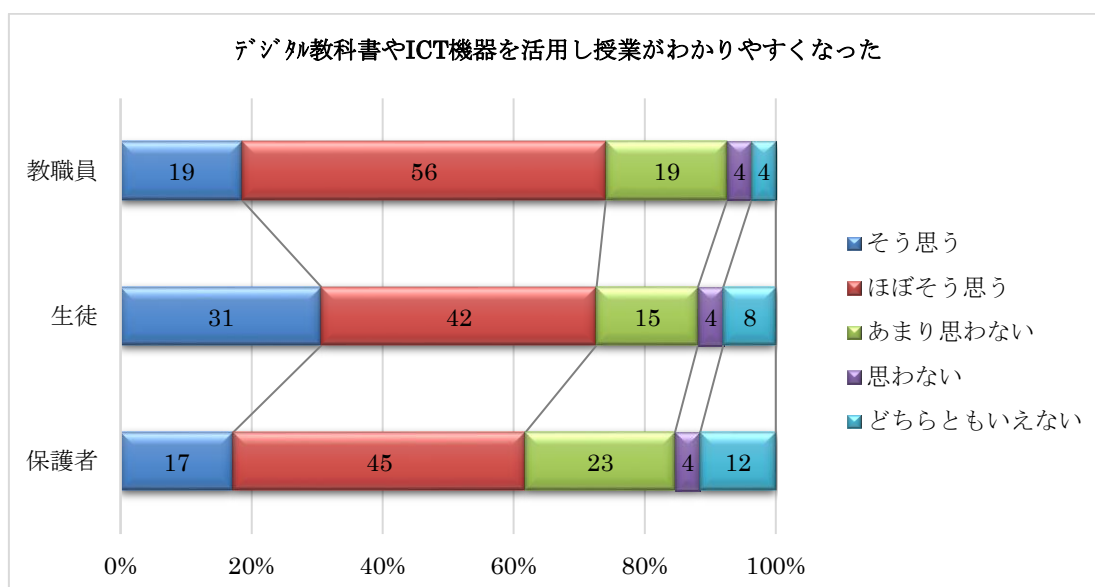
生徒は88%、保護者は87%、教職員は93%でそれぞれ9割近くが肯定意見となりました。しかし、すべての生徒が学校生活が楽しいと感じられるよう「授業がわかる」「友達との会話が楽しい」「部活動が楽しい」など生徒の健やかな成長がはかれるよう工夫して取り組み教育活動を進めていきます。



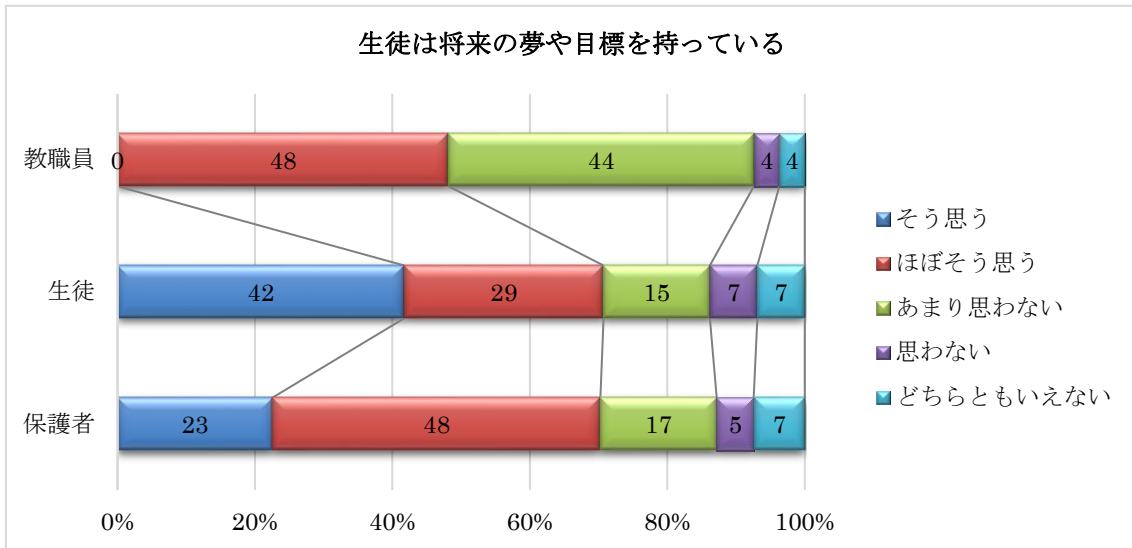
生徒は90%、教職員は89%と9割近くが肯定的意見となりました。しかし、保護者の肯定意見は66%と大きな差が見られます。これは、生徒それぞれが学校生活においては周りと協力し生活を送りやすい環境づくりに努力している様子が伺えます。家庭においても家族の一員として学校生活同様に自分の役割が果たせるよう働きかけていきます。



生徒、保護者、教職員の肯定意見は9割を超えています。コロナ禍の中、今年度も行事の中止や規模の縮小などはありませんでしたが、運動会や文化祭などにおいて、生徒一人一人が制限がある中、精一杯活動することができた結果だと思えます。今後も生徒が積極的に活動できるように工夫していきます。

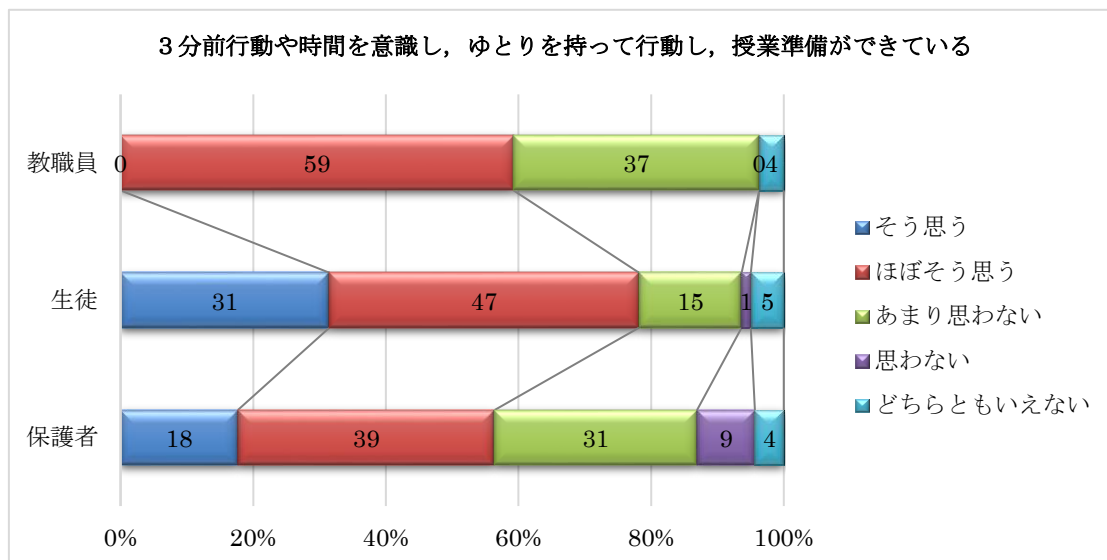


生徒は73%、教職員は75%が肯定的意見です。タブレット等を利用することで最新のデータを用いた学習に取り組んだり、教科書に掲載されていない資料を用いた授業に取り組んだりした結果と考えます。これからもタブレット等 ICT 機器の効果的な活用や工夫を繰り返し検討し、生徒が授業内容をわかりやすくなったと感じる学びの機会を増やすために教職員のタブレットを使用した指導力向上に取り組んでいきます。



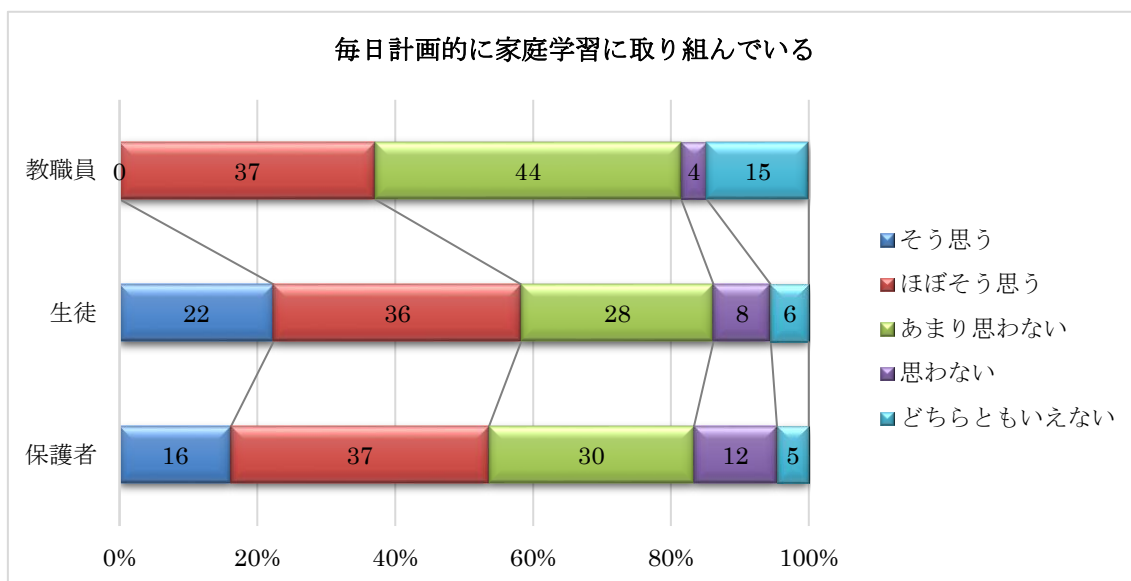
生徒・保護者ともに71%が肯定的意見ですが、教職員の肯定意見は48%の結果となりました。総合的な学習の時間や学級活動などを通して、自己の生き方を考えるとともに生徒が自己の夢や目標が語れるような工夫した活動が必要と考えます。

今後、キャリア教育の更なる充実を図るとともに全ての教育活動における実践的・体験的な学習を通して、自分が自分として生きるために「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく意欲を持った生徒の育成をめざします。

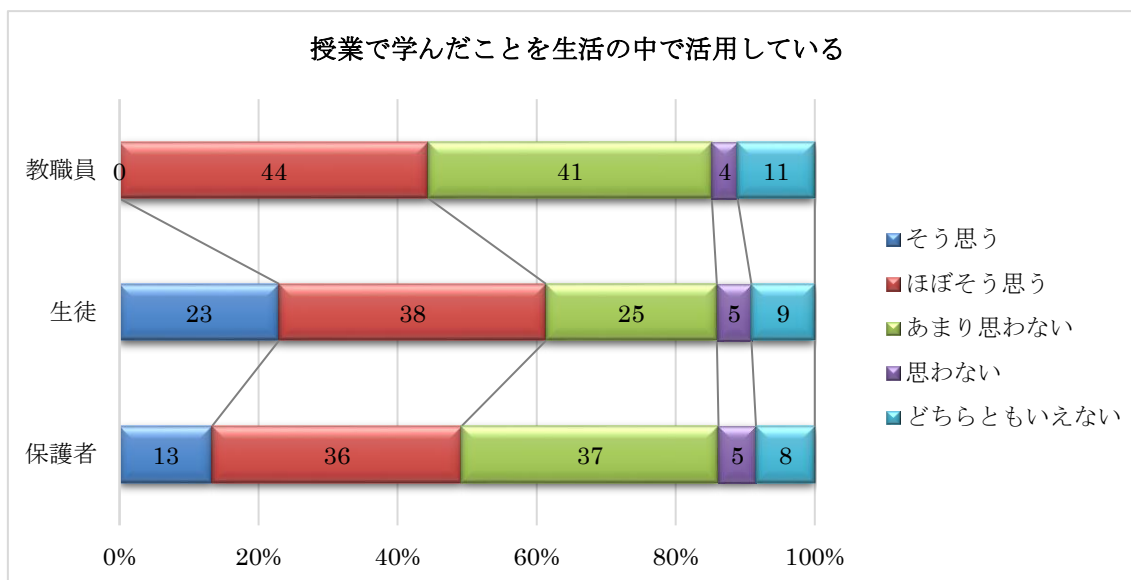


生徒は80%近くが肯定意見ですが、保護者・教職員ともに60%近くの肯定的意見と結果に開きがあります。

生徒自身はゆとりを持って行動できていると思っているようですが、自分がやるべきことを計画的に取り組めるよう、1日の予定や1週間の予定など先を見通したタイムマネジメント能力の育成に取り組んでいきます。

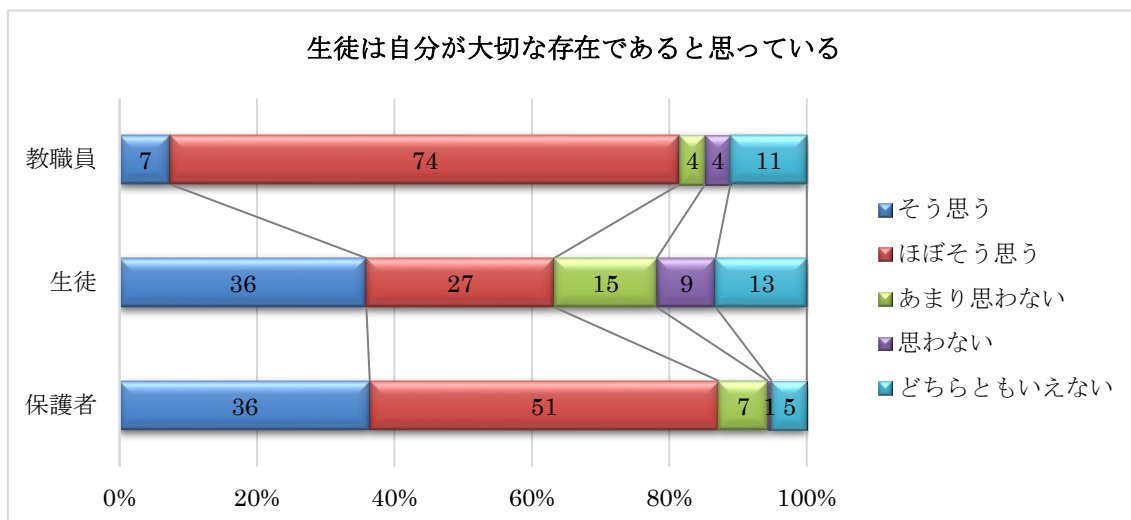


生徒・保護者の肯定的意見は50%近く、教職員の肯定的意見は40%近くと多少の開きがある結果です。他の項目に比べ肯定意見が低く、生徒が毎日計画的に学習に取り組めるように年度当初に計画した学力向上実行プランに沿って課題や宿題など計画的に出したり、キャリア教育と関連させながら将来の夢や目標に向け、自ら課題を見つけ学習していく習慣の定着を図ります。

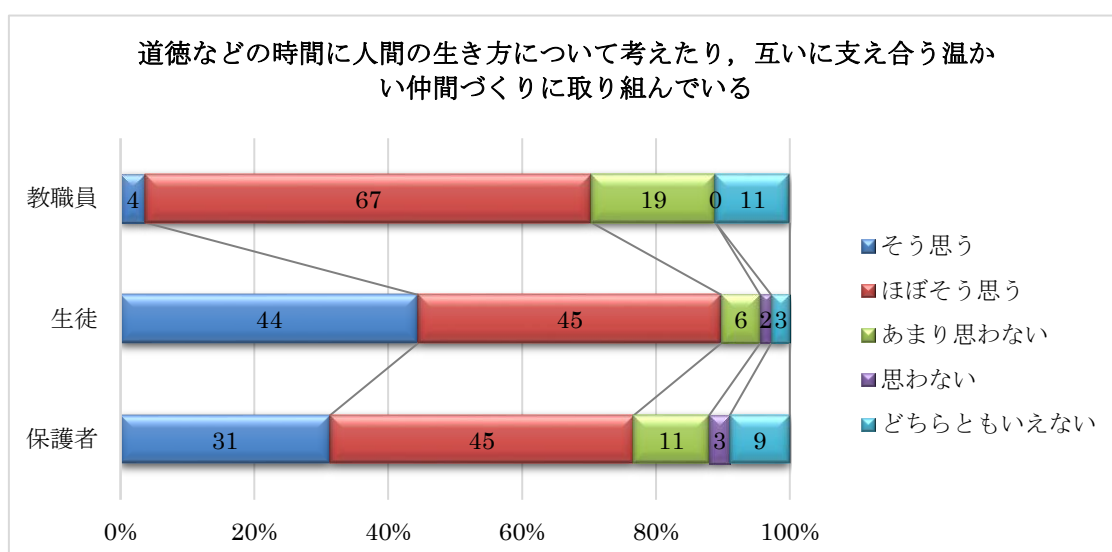


生徒の肯定的意見は60%近く、保護者、教職員は50%近くと肯定的意見の結果に多少の開きが見られます。これは、教育活動の中で携帯スマホ安全教室など生徒が安全に携帯、スマホ、タブレット等を利用できるように開催しましたが、依然としてSNS等のネットトラブルが多くあり、生活の中で活用しきれていないと考えています。この結果を真摯に受け止め、絶えず教職員は、保護者と協力し、利用するルール決めやフィルタリングをかけるなどとともに情報モラルの育成に努めていきます。

また、授業においては、授業内容と日常生活とが結びつくよう、身近な題材を取り上げるなどの工夫をし、課題を見つけ自ら学ぶ力の育成に努めていきます。

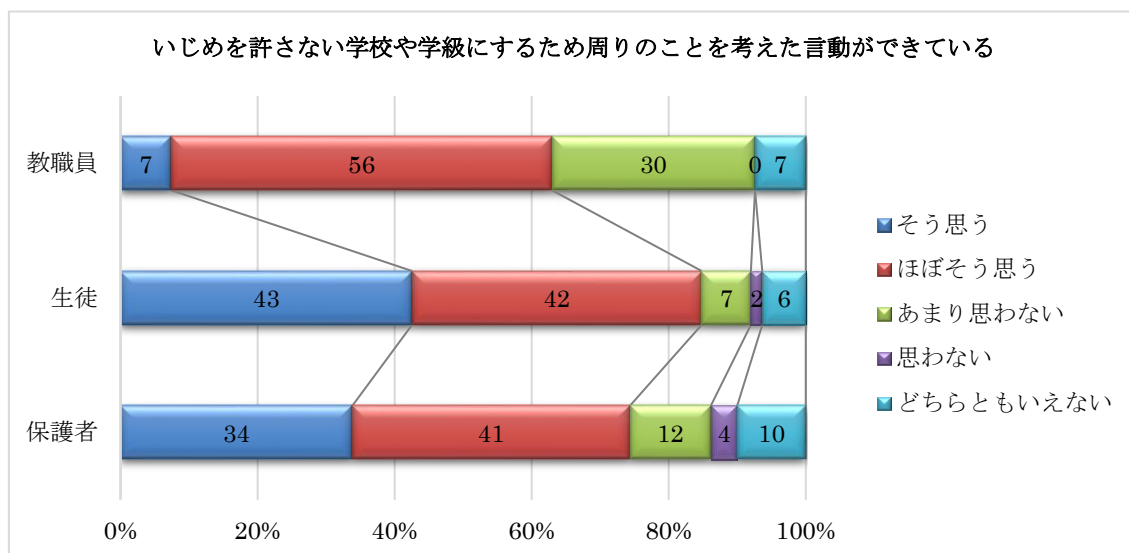


肯定的意見が保護者、教職員ともに80%を超えていますが、生徒の肯定的意見は60%近くと開きが大きい結果となりました。これは、他人の役に立ったや他人に喜んでもらったといった自己有用感を感じる機会が少ないことが要因にあると考えます。教育活動の中で生徒の努力する姿や友達を思いやった言動を褒め、自己有用感を高めることが必要です。自己有用感を高めることで、人の役に立ちたい、人と関わることが楽しいと思える人間に育つことにつながり、生徒が自分は大切な存在であると思える自己肯定感が育つと考えます。日々、生徒とともに活動する中で一人一人の良さを認め、生徒自身が認められていると実感できる声掛けを進めていきます。



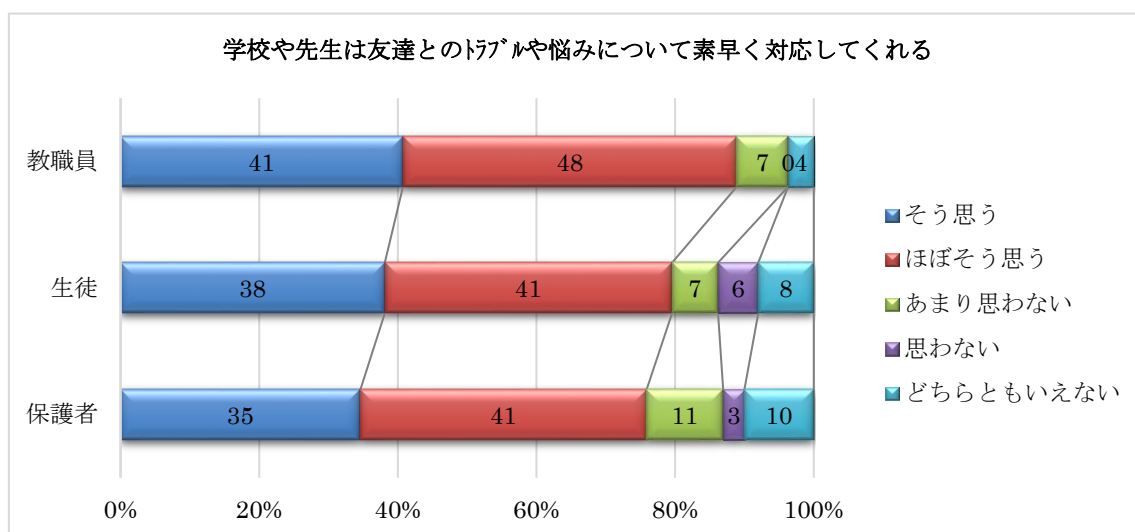
保護者は76%、教職員は71%、生徒との開きは大きいですが、生徒の90%近くが肯

定的な意見となりました。道徳、人権学習、協働学習、学校行事などを通して、生徒の望ましい人間関係を形成し、集団生活の秩序と変化をもたらし、より良い学校生活を築くための良い機会となります。これからも仲間との協働を通して互いに支え合う大切さに気づき、協調性や責任感、リーダーシップを育成し、豊かな人間性を育む教育活動を実践していきます。

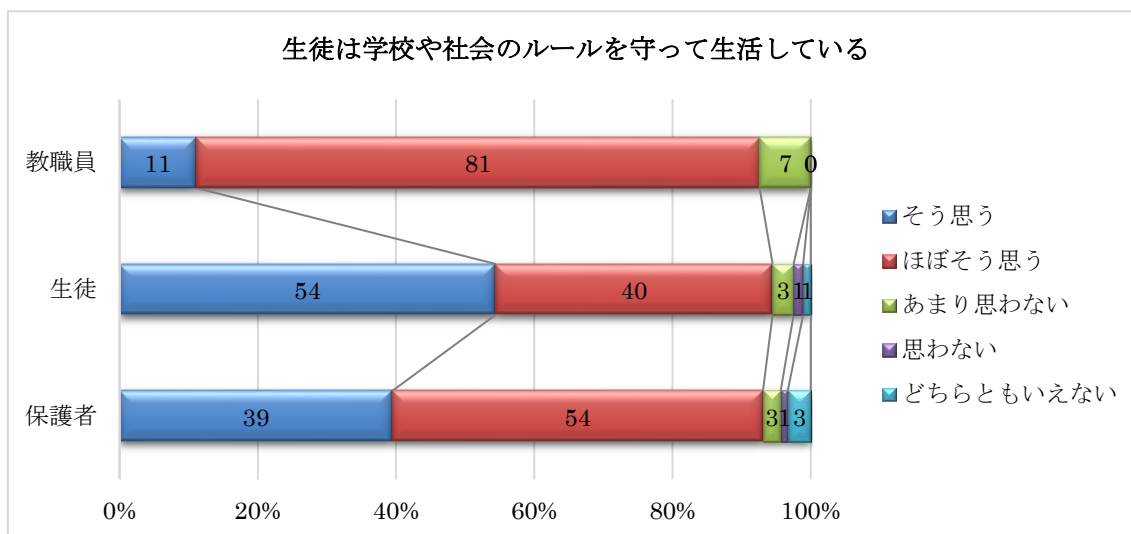


生徒の肯定的意見は85%、教職員は63%と生徒と教職員の間には、肯定的意見の結果に大きな開きが見られます。いじめを許さない学校や学級づくりには、「いじめは人間として絶対に許されない」との意識を、学校教育全体を通じて生徒一人一人に徹底し、意識を行動につなげることが重要です。

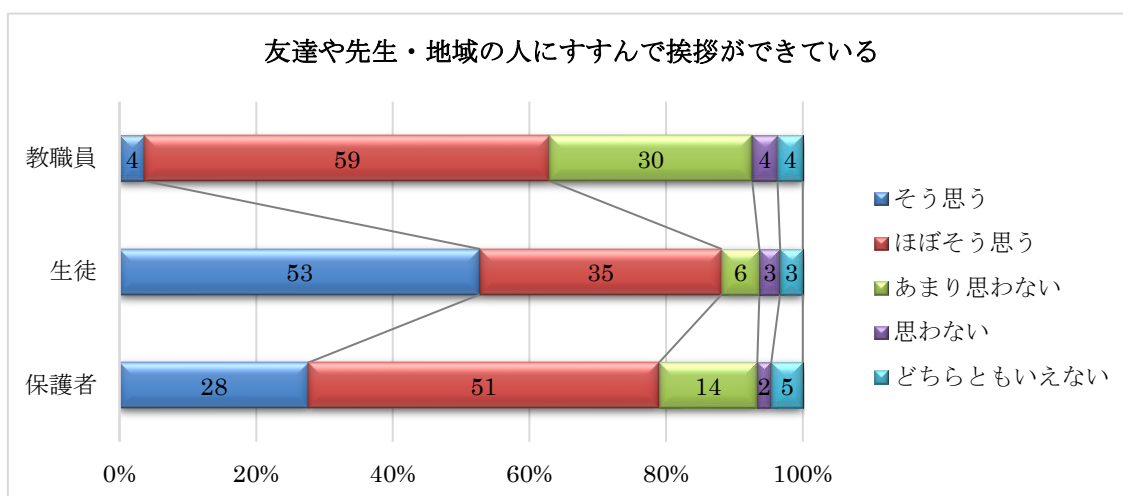
そのためには、教職員一人一人がいじめ問題の重大性を認識し、学校全体で協力体制を確立して実践していくことが求められています。学校教育はもとより、家庭・地域社会との連携を図り、いじめを許さず、周りのことを考えた言動につながるよう道徳教育を積極的に進めていきます。



生徒、保護者の肯定的意見は80%近くとなりました。これは生徒、保護者からの相談を受け、学校全体もしくは学年で素早く事実確認をし、トラブルの原因に対し、毅然とした態度で指導し、トラブル解消に向け対応してきました。また、指導後は保護者に状況を説明し、後のフォローなど家庭と連携をしながら、指導後の生徒を見守ってきた結果であると考えています。これからも絶えず教職員は、生徒の変化に対しアンテナを高く広げ、早期発見・早期対応に努めていきます。

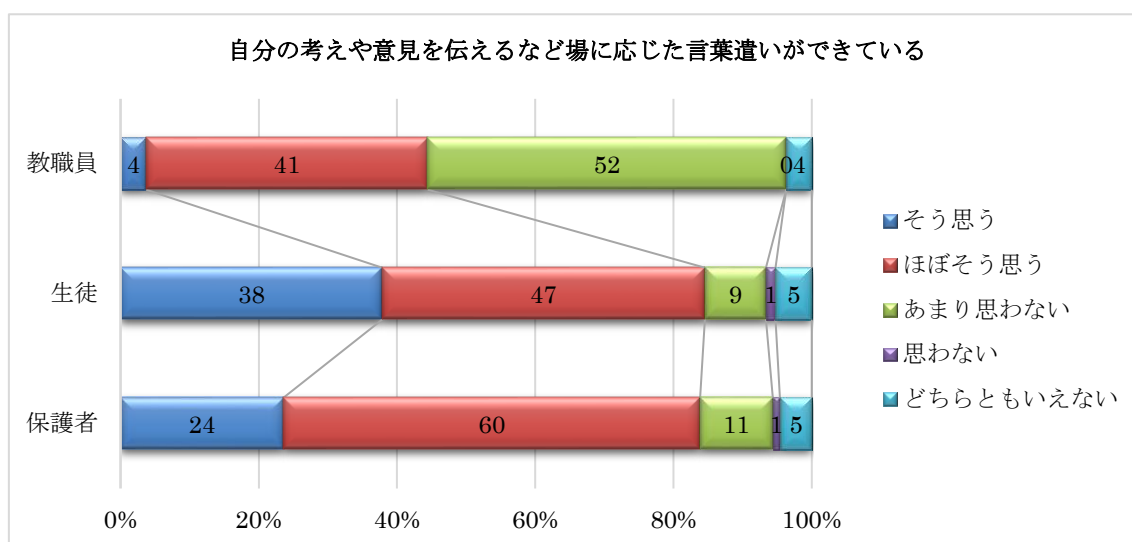


生徒、保護者、教職員とも90%以上が肯定的意見となりました。多くの生徒が規範意識を高く持ち、落ち着いた学校生活を送ったり、学習や部活動に取り組めたりしています。しかしながら、放課後や生徒の土日を含めた校外での生活に対し、不十分なところが見受けられることもあり、学校生活だけでなくあらゆる場面において、羽中生の誇りと自覚を常にもち、保護者のみなさまにもご協力を頂きながら、ルールを守り安心安全な生活が送れるように努めていきます。

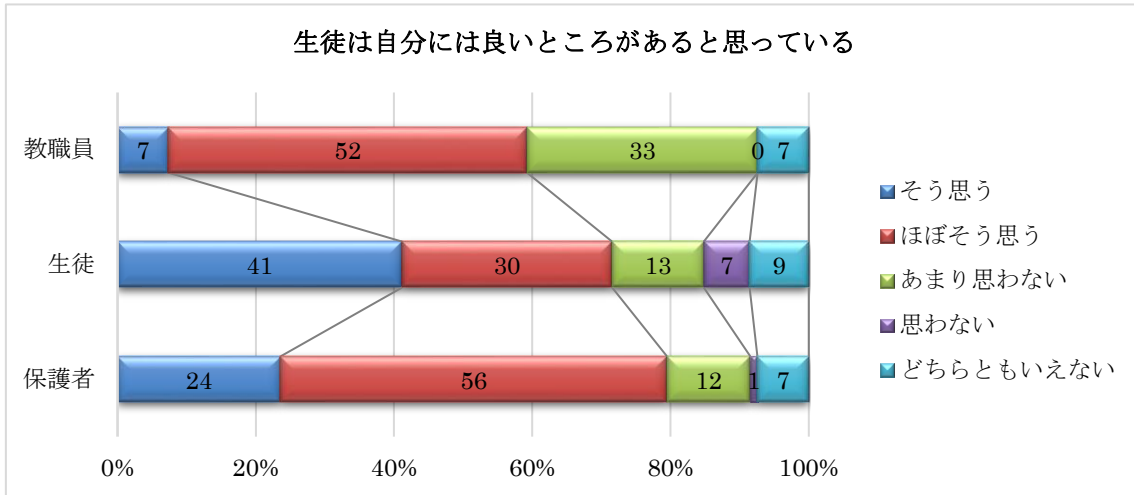




生徒の90%近くが肯定的意見という結果となりましたが、保護者は79%、教職員は63%とそれぞれに開きがあります。これは、休み時間などすすんであいさつができる生徒は多いですが、朝の挨拶などにおいては、すすんであいさつできる生徒が少ないことが要因と考えられます。地域の方から、中学生が朝、爽やかな挨拶をしてくれるといったうれしい連絡をいただけることもあります。時間や場所に関係なく、常にすすんであいさつができる生徒が増えるよう、あいさつの大切さを伝えるとともに、教職員も生徒の手本となり、これからもすすんであいさつをしていきます。

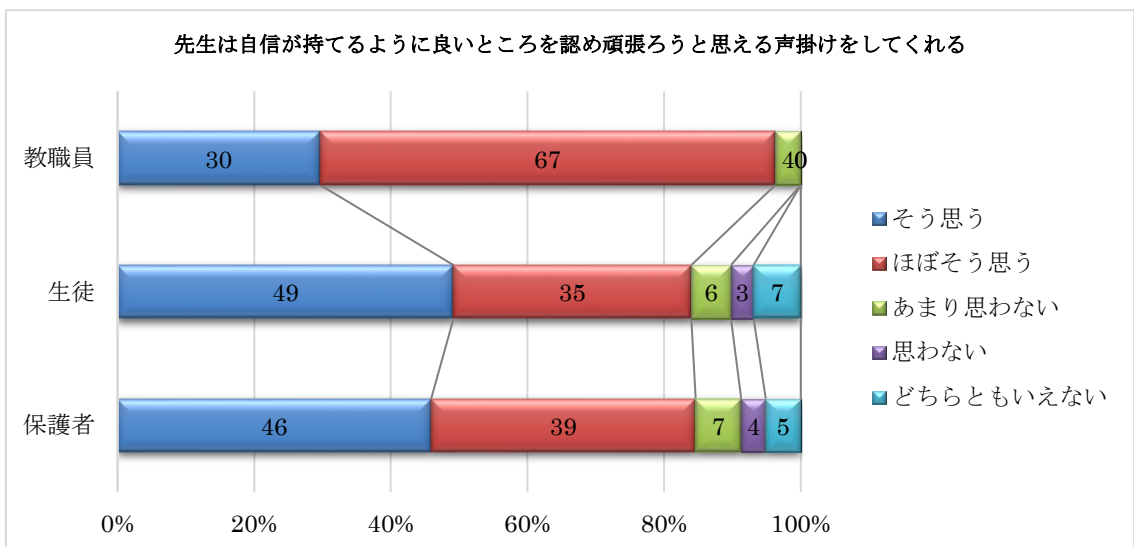


80%以上の生徒・保護者が肯定的意見です。教職員の肯定的意見とは45%の開きがある結果となりました。これは、教職員に親しみを持って話しかけてくれる生徒が多い現状の中で、親しくする中でもはじめをつけ、場に応じた言葉遣いができる生徒が少ないと捉えていることが要因の一つかもしれません。場に応じた言葉遣いは、社会に出て大切な力と考えています。学校生活や授業の中で自分の考えや意見を相手に適切に伝えられるコミュニケーション能力が身につくように、教職員が授業の中で発表の機会を増やすなど国語力を生かした授業改善に取り組むとともに場に応じた言葉遣いの大切さについて伝えていきます。



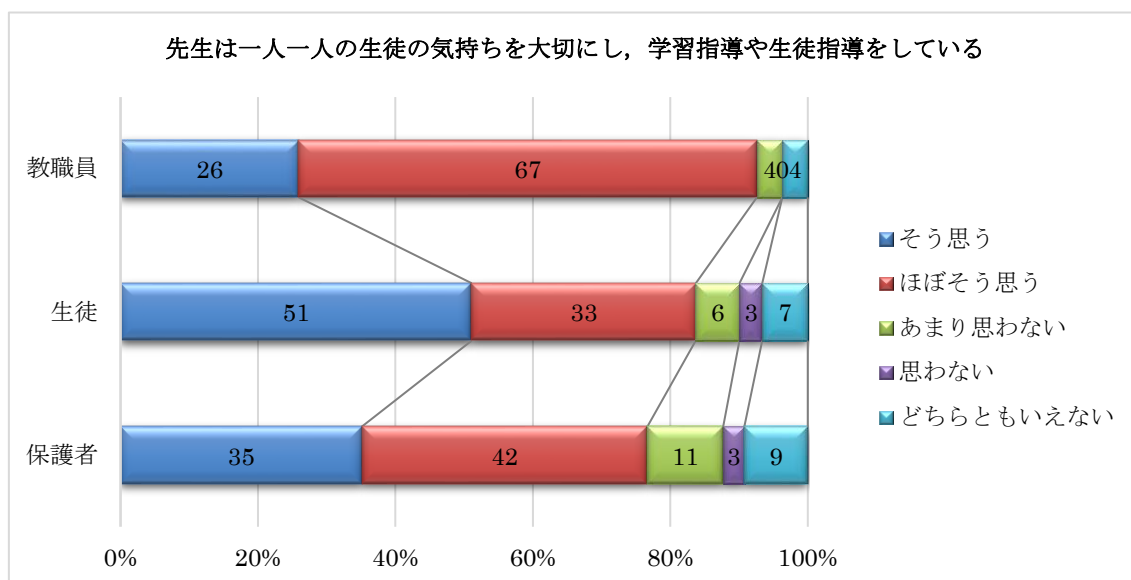
肯定的意見は生徒71%という結果となりましたが、約3割の生徒は自分の良さを認識できていない課題が見えてきました。自分自身の良さを知っている生徒（自己肯定感の高い生徒）は、物事を前向きに捉え、うまくいかなくても努力を継続できたり、自分をかけがえない存在として肯定しているため周りの人もかけがえない存在として認識できたりします。また、周りに振り回されたり周囲の目を気にしすぎたりせず主体的に行動できると考えます。

全ての生徒が自分の良いところを認識できるように、教育活動の中で教職員が生徒のそれぞれの良さを認め、褒める機会を多くし、生徒自身が自分の良さに気づけるようポジティブな行動支援に努めてまいります。



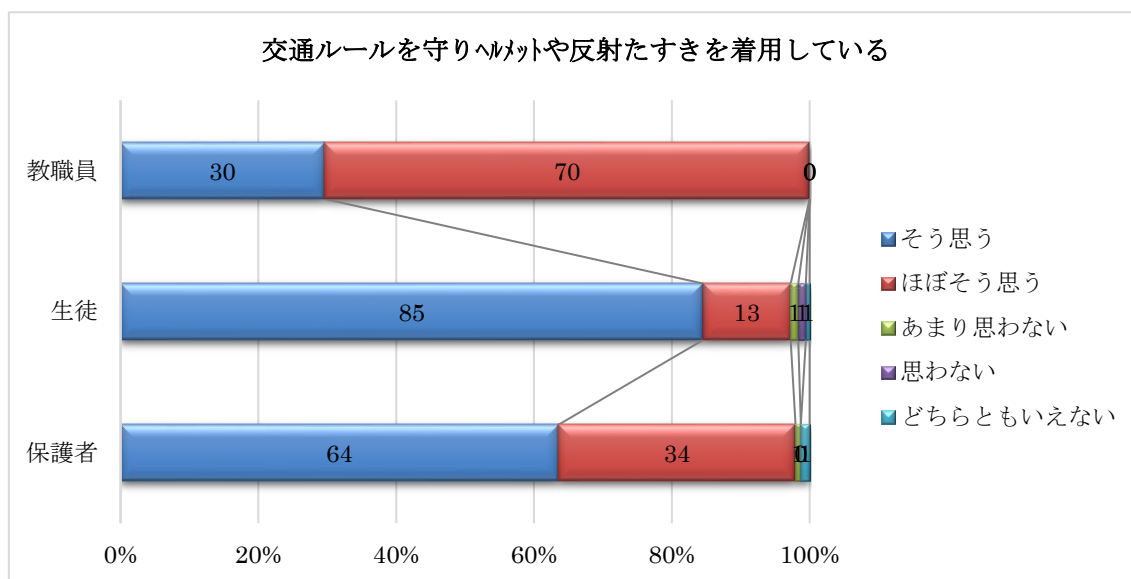
生徒、保護者ともに肯定的意見は85%近くという結果となりました。教職員の97%が生徒が自信を持てるように良いところを認め、頑張ろうと思えるよう声掛けをしていると思っています。前質問項目にも密接に関係していますが、生徒の良いところを認め頑張ろう

と思える声掛けを繰り返すことで、自分の良さを認めることができる生徒（自己肯定感の高い生徒）の育成につながると考えます。これからも良さを認め頑張ろうと思えるよう支援していきます。

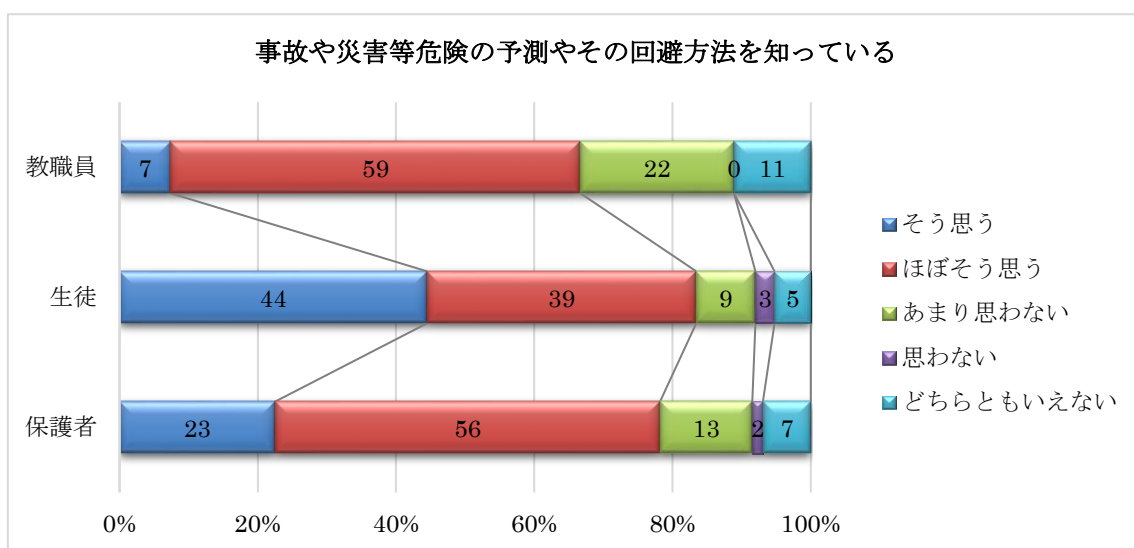


生徒、保護者の肯定的意見は80%近く、教職員は93%と結果に多少の開きがあります。授業においては「学習内容を理解したい」「問題が解けるようになりたい」といった生徒の気持ちを受け止め、学習内容定着に向けワークシート作成などを工夫し、生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業を実践していきます。

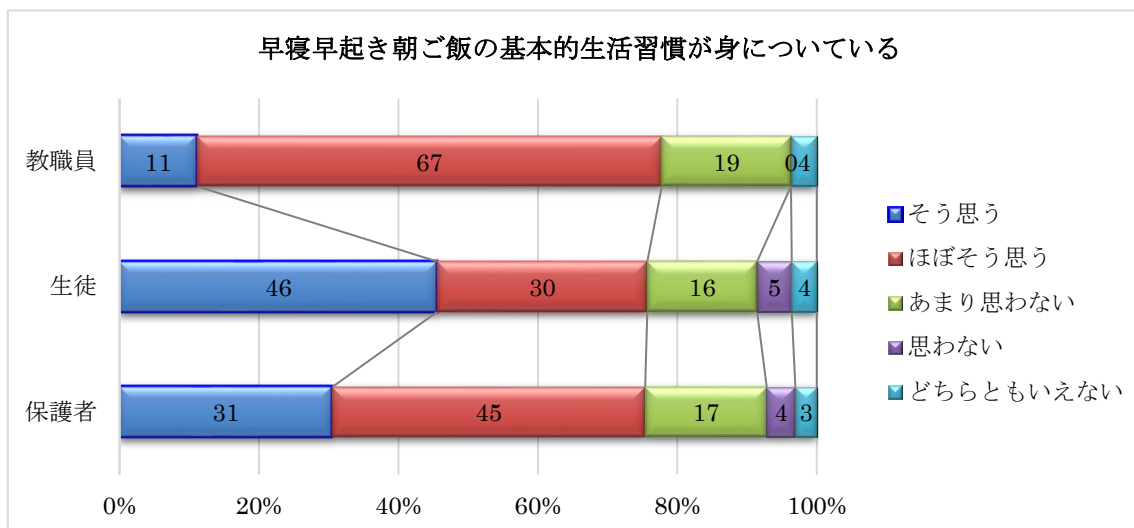
生徒指導においては、生徒が何を考え、どのような気持ちでいるのか、何を願い、どんなことに悩んでいるのかなど、生徒の心の状態に絶えず関心を寄せ、親身になって支えていく個に応じた生徒指導に取り組んでいきます。



生徒、保護者、教職員の肯定意見は、ほぼ100%という結果となりました。生徒は自分の命を守るために、ヘルメットや反射たすきを着用しています。今年度も出会い頭の衝突等の交通事故も数件発生しましたが、ヘルメットを着用していたため大きな怪我を防ぐこともできました。これからも交通ルール遵守やヘルメット着用を呼びかけていきます。

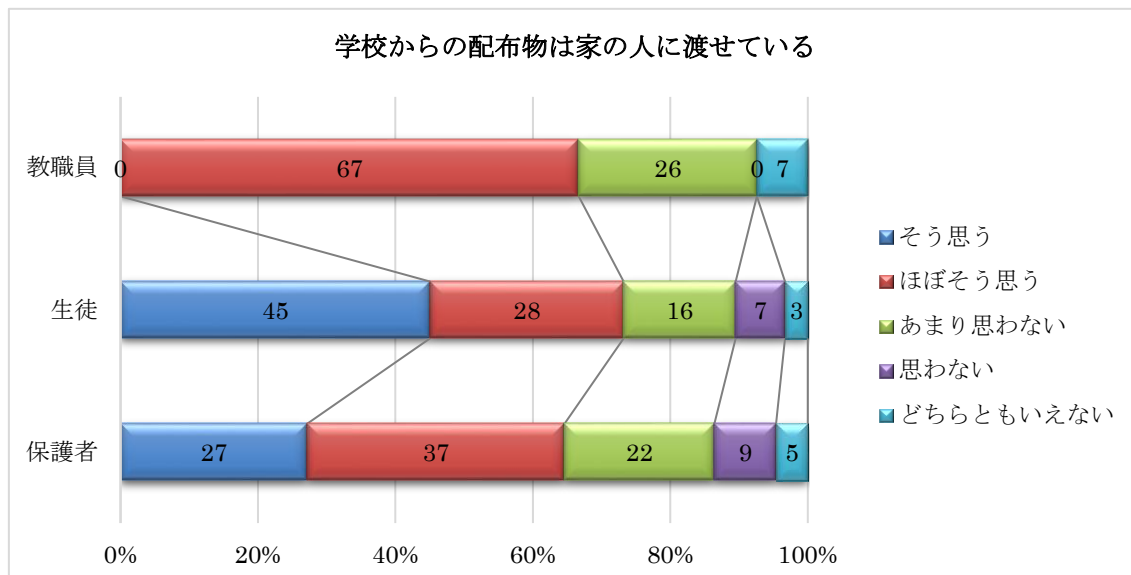


生徒、保護者の肯定的意見は80%近くの結果となりました。今年度生徒は、事故発生時には、保護者や学校に連絡するなど適切に対応することができました。また、各学年1年生時に防災学習に取り組んだことを踏まえて、登下校中などの避難経路における危険箇所確認や避難場所の確認、また避難訓練を通して避難方法を理解していると考えます。

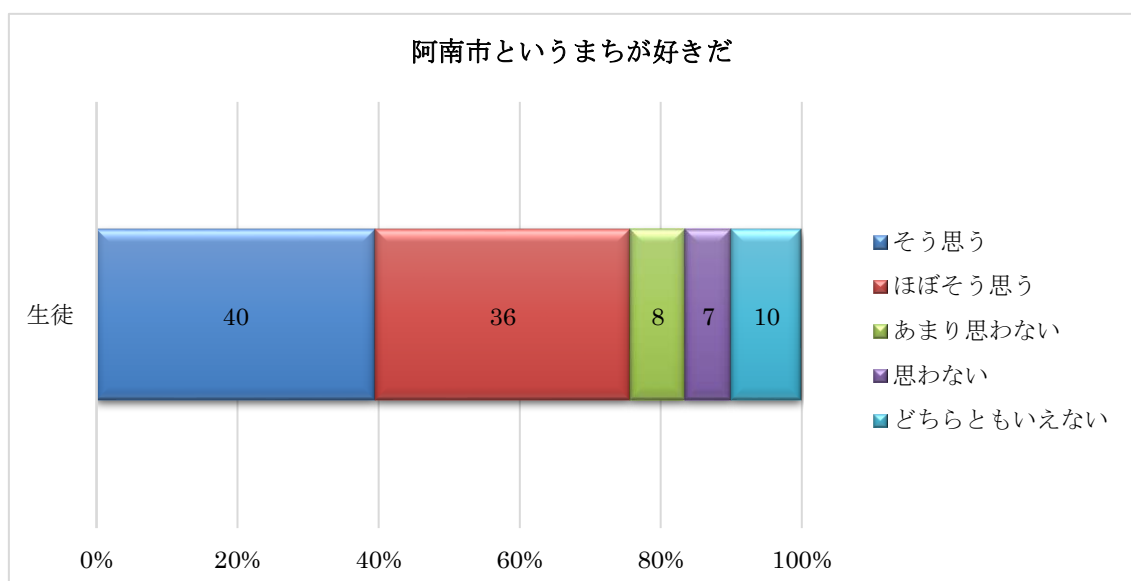


生徒、保護者、教職員の肯定的な意見は75%近くという結果となりましたが、25%近くの生徒が基本的な生活習慣が習慣化されていない課題も見えてきました。基本的な生活習慣の確立は、学力や体力の向上につながります。早起きをし、朝食をきちんととって、元気

な一日のスタートをきり、忙しくても朝食を毎日食べる習慣や健康な体づくりができるよう阿南市が取り組んでいる食育「ワ・ア・ア」作戦を活用し食育などに取り組んだり、毎月発行している保健だよりを通して、基本的な生活習慣の定着に取り組んでいきます。



生徒の肯定的意見は73%、保護者、教職員は65%近くという結果から、全体的として3割の家庭に配布物が届いていないということがわかりました。今年度も学年通信・給食だより・カウンセラーだよりなどの定期通信や様々なお知らせをプリントで配付いたしました。学校からの配布物は、保護者に学校の教育活動にご理解・ご協力いただくために大切なものであります。配布物が、確実に家庭に届くように、まちこみメール等を活用し配布物の連絡をしていこうと考えております。



生徒の肯定意見は76%という結果です。自分の生まれ育つまちが好きであったり、この阿南市に誇りを持ったりできるように、地域との関わりを大切にした教育活動を進めてい

きます。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職場体験学習や赤ちゃん授業、保育実習などが中止となっておりますが、地域の方をお招きし、それぞれの分野で活動していただける内容についてお話していただける機会を増やしていこうと考えています。

授業では教え方が工夫され、学習内容が「わかる」「できる」喜びを感じることができる

